

メイド・イン・山梨



冬号 | Vol.01 2012/Winter ❄️❄️❄️

特集 ヤマナシのワイン

ワインの生産量日本一を誇る山梨県。まさに「ワイン王国」と呼ばれるようになって久しいが、ではなぜ、山梨は「ワイン王国」となり得たのであろうか。歴史的な背景や地理的条件：…など様々なアブローチから「山梨のワイン」を検証。そして、これからの山梨のワイン産業を担っていく「ヒト・モノ・コト」をご紹介します。



メイド・イン・山梨



冬号 | Vol.01 2012/Winter ❄️❄️⊗

特集

ヤマナシのワイン

ワインの生産量日本一を誇る山梨県。まさに「ワイン王国」と呼ばれるようになって久しいが、ではなぜ、山梨は「ワイン王国」となり得たのであるのか。歴史的な背景や地理的条件：：など様々なアブローチから「山梨のワイン」を検証。そして、これからの山梨のワイン産業を担っていく「ヒト・モノ・コト」を紹介。





CONCEPT

山梨は、日本の首都東京を中心に描く100kmの円の中に入る絶対的な地理的条件に位置しています。

でもその100kmの円の中に入る他の地域と比較すると、その相対的距離は、県境にそびえ立つ高い山のおかげで随分遠いと思われているようです。しかし、その相対的距離の遠さは、そのまま山梨の地理的メリットであり、実は自然財産や地域資源などの高い可能性を意味しています。

山梨県の自然財産や地域資源から生まれている開発力やアイデア力の高い商品は、ヤマナシの貴重な宝です。

ヤマナシのモノサシは改めてその「ヤマナシの貴重な宝」を「ヒト・モノ・コト」をベースに様々なアプローチでご紹介をし、「山梨」をまったくご存知いただいていない方には少しでもご興味を抱いていただけるきっかけを・・・

「山梨」に現在ご在住の方には今生活している地域に新たな発見を持っていただけるようなヒントを・・・皆様にお届けできるような存在でありたいと考えています。

CONTENTS

01

なぜ山梨にワイン？

01

02

「甲州ワイン」の魅力

00

03

山梨のワインの可能性

00

04

今月のヤマナシの「人」まるき葡萄酒□□さん

00

05 06

ヤマナシのものさし

00

ヤマナシギャラリー

00



01

02

03

04

Why

なぜ山梨にワイン？

Why is wine, YAMANASHI?

歴史的背景

ワインの生産量日本一を誇る山梨県。
まさに「ワイン王国」と呼ばれるようになって久しいが
ではなぜ、山梨は「ワイン王国」となり得たのであるのか。
まずは山梨のワイン産業の歴史的な背景から
探っていこうと思う。

特集
ヤマナシのワイン



山梨のぶどうにまつわる2つの「伝説」。

古来より山梨ではぶどうの産地として有名ではあるが、「ぶどう」にまつわる伝説として2つの伝説が挙げられる。

まずは山梨でも代表的な産地「勝沼」地域の話であるが、養老2年(718年)、甲斐の国を遍歴中であった行基が、柏尾村(現・甲州市勝沼地域)の日川溪谷の大盤石で修行をしていたところ、こつぜんとして夢に薬師如来が現れ、その右手にはぶどうを持っていたことから行基は法薬であるぶどうの栽培を村人に教え、それが地域に広まったという「大善寺伝説」。

そして、文治2年(1186年)上岩崎の住人、雨宮勘解由は付近の山「城の平」で行われる石尊祭へ例年のように村人と一緒に参列するため山道にかかった。ところが偶然にもその路傍に、一種のつる性の植物を発見した。これは未だかつて見たことのない植物

であり、一緒にいた村人にも相談してこれを自園に栽培することにした。

それから5年の春夏を経て、そのつるは繁茂し、ついに建久元年(1190年)の5月に初めて30余の房が結実した。勘解由は、この珍しい果実に自らが驚き、栽培の努力の賜と思いその年の秋の実りに期待したのだった。

そして8月下旬にその果実はことごとく熟

し、色は朱紫のように、味はきわめて甘美であったので、勘解由はこの果実の繁殖方法を研究し、同8年ようやく13株となった。

この年、鎌倉右大将源頼朝が長野の善光寺に参詣の際、そのぶどうを三箇ご献上した。

その後、子孫の雨宮織部正は領主武田信玄へぶどうを献上し、非常にその美味をほめられ太刀を賜わったといわれている「雨宮勘解由伝説」。

この二つの伝説のどちらかが山梨での甲州ブドウ栽培の始まりと言われているますが、あくまでも伝説なので真相は判りません。

ただ、雨宮勘解由が甲州ブドウの栽培に成功したのは事実のようです。

大善寺の薬師如来像現在は本尊の薬師如来像の持物は失われているが、元は右手に葡萄を持っていたという伝承がある



Why

なぜ山梨にワイン？

歴史的背景

山梨の大地と太陽が育む「穂」。



高野正誠と土屋龍憲

ブドウの苗をせん定するポーズで記念写真。
右：高野正誠、左：土屋助次郎の二青年
(パリ市内の写真館で撮影)

特集
ヤマナシのワイン



山梨のワイン生産第一歩。 2人の青年のフランス留学

山梨で甲州ブドウからワインが作られるようになったのは、1870年頃のこと。甲府の山田宥教、詫間憲久の両氏によってぶどう酒が醸造されたことを皮切りに、明治10年(1877年)、政府の打ち出した殖産興業政策を受け、ときの山梨県がブドウの栽培とワインの醸造を奨励。

県下選りすぐりの豪農たちを発起人に、当時の祝村(現在の勝沼町下岩崎)にわが国初のワイン醸造会社「大日本葡萄酒会社」を設立したことに始まる。

同社はワイン醸造のため、同年の10月、勝沼の2人の青年、高野正誠(当時25歳)、土屋龍憲(当時19歳)をフランスに伝

習正として派遣。二人の青年が留学先から持ち帰った貴重なぶどう栽培技術とワインの醸造技術はその後の山梨のワイン産業の広がり大きな影響を与え、多くの醸造場が興り、現在国内随一のワイン産地形成の基となった。県内のワイン造りは、フランス等のワイン先進国に学んだ伝統の中に、新しい技術と設備を導入し、ヨーロッパのワインに負けないワイン造りに取り組んでいる。

外国で行われている、国際的に有名なワインコンクールに出品し、ゴールドメダルに輝いた、ワインを多数製造することが出来るような技術の発展をしている。

年	出来事
718	甲斐国の東部で僧行基がブドウ栽培を奨励(伝説)
1186	甲斐国祝村の雨宮勘解由が甲州ブドウを発見(伝説)
1870	甲府で山田、詫間がブドウ酒を共同醸造
1877	大日本山梨葡萄酒会社が設立され、高野、土屋がフランスへ留学 山梨県勸業試験場に葡萄酒醸造所を設立
1929	山梨県醸造研究所(県工業技術センターの前身)の設置
1944	ワイン中の酒石酸を軍事目的に調達(生産量12,000kl)
1949	山梨大学発酵化学研究施設の設置
1955	山梨県ワイン酒造組合は第一回葡萄酒品評会を開催
1968	山梨県と山梨県ワイン酒造組合は第一回葡萄酒鑑評会を開催
1974	勝沼町内に県立ワインセンターを設立
1976	勝沼町産ワイン品質審査会の発足(1979:勝沼町原産地認証制度)



甲府・舞鶴城跡に建てられた
県立葡萄酒醸造所

Why

なぜ山梨にワイン？

地理的背景

山梨の大地と太陽が育む「穂」。



特集
ヤマナシのワイン



日本の代表的な「扇状地」。
日照時間が「日本一」。



ぶどう栽培の適地は水はけが良く、しっかりと根の張れる土地であることが必要。そして、ぶどうの収穫量と品質は天候とともに、この土壤によって決定される。

山梨県は「甲府盆地」に代表される特有の「内陸性気候」であり、四季が明瞭で寒暖の差が大きく、特に夏は日本でも1,2を争う高温になることが大きな特徴。そして、甲府盆地はフォッサマグナに位置する盆地であるため、盆地の周囲が断層となっており、河川がこの断層から落ちる際に土

砂を堆積させ、扇状地を作る。この扇状地が水はけの良い環境を生み出し、ぶどうを育成する大きな要因であることは間違いない。

そして、山梨県が日本でも有数の「日照時間」が長い地域として挙げられる。甲府盆地を囲むように覆っている「扇状地」に太陽の光が余す事なくぶどうやももなどの樹木に降り注ぐ事で品質の良い果物が生まれることは想像に難くない。

メイド・イン・山梨（テスト準備号）

<http://p.booklog.jp/book/42458>

著者：ヤマナシ良品

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/y-ryohin/profile>

ヤマナシ良品ホームページ：<http://www.yamanashi-ryohin.com>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/42458>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/42458>